

(平成 31 年 1 月 10 日一部修正)

平成 30 年 3 月 30 日

気 象 庁 予 報 部

## 配信資料に関する技術情報 第 489 号

～洪水警報の危険度分布のシェープファイル形式による提供について～

(配信資料に関する技術情報 第 446 号関連)

気象庁では、市町村長等が行う避難勧告等の発令や、住民の避難開始の判断を支援するため、洪水災害発生危険度が高まっている領域を視覚的に確認できるよう、平成 29 年 7 月 4 日より洪水警報の危険度分布を提供しています。

この危険度分布について、これまで GRIB2 形式で配信してきましたが、気象庁ホームページと同様の流路表示が容易にできるよう、新たにシェープファイル形式による配信を開始することとしましたのでお知らせします。

なお、GRIB2 形式の洪水警報の危険度分布については従前どおり配信します。

### 記

#### 1 提供開始時期

平成 30 年度出水期

具体の提供開始時期及び試験配信の日程は後日別途ご連絡します。

#### 2 データの概要

洪水警報の危険度分布は、流域雨量指数及び表面雨量指数の実況・予想に基づいて、1km メッシュ毎に中小河川<sup>1</sup>の洪水災害発生危険度の高まりを 5 段階で表示した分布図です。日本国内の陸上を対象に、地表面を約 1km 四方の領域(緯度 0.5 分・経度 0.75 分)に分けてそれぞれの領域で計算していますが、本形式では、洪水危険度判定値を河川の流路に対応づけて提供します。また、中小河川の洪水危険度の高まりと指定河川洪水予報とを一体的に利用していただくため、発表中の指定河川洪水予報の種類についても指定河川洪水予報の対象河川(以下「洪水予報河川」)の予報区間の流路に対応づけてあわせて提供します。

##### (1) 格納するデータ

本形式で 10 分毎に提供するのは、中小河川の洪水危険度判定値が 1 以上の部分と、指定河川洪水予報が発表されている洪水予報河川の予報区間における指定河川洪水予報の種類です。中小河川の洪水危険度判定値が 0 の流路部分や指定河川洪水予報が発表されていない洪水予報河川の予報区間を表示するには、あらかじめ提供

---

<sup>1</sup> 本資料においては、指定河川洪水予報の対象河川を除く河川を指します。

する流域雨量指数計算河川及び洪水予報河川の予報区間の流路データ<sup>2</sup>をご活用ください。

なお、GRIB2 形式のデータには、流域雨量指数計算河川の流路が存在しない格子の洪水危険度判定値も含まれていますが、本形式のデータには流域雨量指数計算河川の流路が存在しない格子の洪水危険度判定値は含まれていません。また、1km 四方の領域に複数の流域雨量指数計算河川が存在する場合、GRIB2 形式のデータにはそれらの河川における最大の洪水危険度判定値が格納されていますが、本形式のデータには河川毎の洪水危険度判定値が格納されています。

## (2) 洪水危険度判定値

中小河川の洪水危険度判定値は、以下の3つの判定値のうち、最大のものを河川毎に格納します。

- ・解析時刻の流域雨量指数・表面雨量指数による洪水危険度判定値
- ・10分毎の降水ナウキャストを用いた1時間先までの雨量予測に基づく流域雨量指数・表面雨量指数の予想による洪水危険度判定値
- ・1時間毎の降水短時間予報を用いた3時間先までの雨量予測に基づく流域雨量指数・表面雨量指数の予想による洪水危険度判定値

なお、洪水危険度判定値の意味は次のとおりです。

洪水危険度判定値	意味
0	実況および予想で、基準Ⅰ（洪水注意報の流域雨量指数基準あるいは複合基準（※1））未満
1	実況または予想で、基準Ⅰ（洪水注意報の流域雨量指数基準あるいは複合基準（※1））に到達
2	実況または予想で、基準Ⅱ（洪水警報の流域雨量指数基準あるいは複合基準（※1））に到達
3	予想で、基準Ⅲ（洪水警報の流域雨量指数基準を大きく超過した基準）に到達
4	実況で、基準Ⅲ（洪水警報の流域雨量指数基準を大きく超過した基準）に到達

※1 湛水型の内水氾濫に起因する浸水害を対象として設定した、表面雨量指数と流域雨量指数の組み合わせによる基準（基準の詳細については巻末の参考資料を参照）。

※2 洪水危険度判定値が0の流路部分は、配信データに含まれません。この部

<sup>2</sup> 洪水警報の危険度分布に用いている流域雨量指数計算河川及び洪水予報河川の予報区間の流路データについては、国土交通省国土政策局「国土数値情報（河川台帳）（単位流域台帳）（流路S52）」をもとに気象庁が加工しています。

分は、あらかじめ提供する流域雨量指数計算河川の流路データで表示可能です。

### (3) 指定河川洪水予報

指定河川洪水予報の種類の意味は次のとおりです。

指定河川洪水予報の種類	意 味
2	氾濫注意情報
3	氾濫警戒情報
4	氾濫危険情報
5	氾濫発生情報

※ 指定河川洪水予報を公表していない洪水予報河川は、配信データに含まれません。この部分は、あらかじめ提供する洪水予報河川の予報区間の流路データで表示可能です。

## 3 ファイル形式

今回提供を開始する洪水警報の危険度分布のファイル形式の概要は以下のとおりです。シェープファイルの形式は ESRI ジャパン株式会社の技術情報をご参照ください。

ファイル形式	シェープファイル（メイン・ファイル、インデックス・ファイル、属性ファイルで構成する。）
使用するシェープ・タイプ	PolyLine のみ
属性ファイル	フィールドは、河川種別、河川番号、洪水危険度判定値、予報区域コード、指定河川洪水予報の種類（5要素）。 フィールドの詳細については別添 1 を参照。
出力値	洪水危険度判定値： 洪水危険度判定値が同一であるパート毎に、その洪水危険度判定値をデータベース・レコードとして出力。 指定河川洪水予報の種類： 予報区域毎の指定河川洪水予報の種類をデータベース・レコードとして出力。
作成頻度	10 分毎
ファイルサイズ	3MB（gzip 圧縮後のサイズ。展開後は最大で約 6MB。）

※ 表示する流路に対するレコードのイメージを別添 2 にまとめます。

※ 世界測地系（JGD2000）に準拠しています。

※ すべての領域において洪水危険度判定値が 0 かつ指定河川洪水予報の発表がない場合は、ファイル・ヘッダのみを配信します。

※ 本形式に沿って作成したデータは、GIS ソフトウェアの ArcMap10.0 及び

QGIS2.8.2において正常に表示できることを確認しています。

#### 4 ファイル名

- ・洪水警報の危険度分布（流路）

Z\_C\_RJTD\_yyyyMMddhhmmss\_MET\_INF\_Jfloodriskmap\_shape.tar.gz

次の三つのファイルが展開される。

Z\_C\_RJTD\_yyyyMMddhhmmss\_MET\_INF\_Jfloodriskmap\_shape.shp

Z\_C\_RJTD\_yyyyMMddhhmmss\_MET\_INF\_Jfloodriskmap\_shape.shx

Z\_C\_RJTD\_yyyyMMddhhmmss\_MET\_INF\_Jfloodriskmap\_shape.dbf

- ※ Z と C の間にはアンダースコアが 2 個設定されている点に注意してください。その他のアンダースコアは 1 個です。yyyyMMddhhmmss はデータの年月日時分秒を UTC（協定世界時）で表します。

#### 5 サンプルデータ等

流域雨量指数計算河川及び洪水予報河川の予報区間の流路データ及びサンプルデータは（一財）気象業務支援センターに提供しておりますので、必要な場合は同センターへお問い合わせください。

#### 6 利用にあたっての留意事項

別添 3 を参照願います。

以上

#### 【改訂履歴】

●平成 31 年 1 月 10 日

- ・別添 3 の留意事項について一部追加。

## 属性ファイルのフィールド

フィールド名	和名	フィールド型	フィールド長	とりうる値	説明
TYPE	河川種別	C	1	“1” “2”	1: 洪水危険度判定値(中小河川の洪水災害発生の危険度)を格納する河川。 2: 指定河川洪水予報の種類を格納する河川。
RIVERCODE	河川番号	C	8	8桁の数値 (TYPE値が“2”の場合は半角空白でパディング)	気象庁ホームページ <sup>※1</sup> に河川番号及び対応する河川名を記載。(例: 天塩川は、81001001)
FLOODRISK	洪水危険度判定値 <sup>※2</sup>	C	1	“0” “1” “2” “3” “4” (TYPE値が“2”の場合は半角空白でパディング)	0: 実況および予想で、基準Ⅰ(洪水注意報の流域雨量指数基準あるいは複合基準)未達。 1: 実況または予想で、基準Ⅰ(洪水注意報の流域雨量指数基準あるいは複合基準)に到達。 2: 実況または予想で、基準Ⅱ(洪水警報の流域雨量指数基準あるいは複合基準)に到達。 3: 予想で、基準Ⅲ(洪水警報の流域雨量指数基準を大きく超過した基準)に到達。 4: 実況で、基準Ⅲ(洪水警報の流域雨量指数基準を大きく超過した基準)に到達。
FAREACODE	予報区域コード	C	12	12桁の数値 (TYPE値が“1”の場合は半角空白でパディング)	気象庁防災情報XMLフォーマット <sup>※3</sup> の個別コード表に記載。(例: 天塩川は、810101000100)
FLOODFCST	指定河川洪水予報の種類 <sup>※4</sup>	C	1	“0” “1” “2” “3” “4” “5” (TYPE値が“1”の場合は半角空白でパディング)	0: 予備。 1: 予備。 2: 氾濫注意情報。 3: 氾濫警戒情報。 4: 氾濫危険情報。 5: 氾濫発生情報。

※1 洪水警報の危険度分布 解説ページ([https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/bosai/riskmap\\_flood.html](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/bosai/riskmap_flood.html))

※2 洪水危険度判定値が0の流路部分は、配信データに含まれません。この部分は、あらかじめ提供する流域雨量指数計算河川の流路データで表示可能です。あらかじめ提供する流路データも本フォーマットに沿っており、洪水危険度判定値には半角空白を格納しています。

※3 気象庁防災情報XMLフォーマット 技術資料([http://xml.kishou.go.jp/tec\\_material.html](http://xml.kishou.go.jp/tec_material.html))

※4 指定河川洪水予報を公表していない洪水予報河川は、配信データに含まれません。この部分は、あらかじめ提供する洪水予報河川の予報区間の流路データで表示可能です。あらかじめ提供する流路データも本フォーマットに沿っており、指定河川洪水予報の種類には半角空白を格納しています。

表示する流路に対応するレコードのイメージ



メイン・ファイル (～.shp)

Points
経度1 緯度1 経度2 緯度2...
経度1 緯度1 経度2 緯度2...
経度1 緯度1 経度2 緯度2...
経度1 緯度1 経度2 緯度2...
経度1 緯度1 経度2 緯度2...
経度1 緯度1 経度2 緯度2...
経度1 緯度1 経度2 緯度2...

インデックス・ファイル (～.shx)

オフセット
レコード1のオフセット
レコード2のオフセット
レコード3のオフセット
レコード4のオフセット
レコード5のオフセット
レコード6のオフセット
レコード7のオフセット

属性ファイル (～.dbf)

TYPE (河川種別)	RIVERCODE (河川番号)	FLOODRISK (洪水危険度判定値)	FAREACODE (予報区域コード)	FLOODFCST (指定河川洪水予報の種類)
1	新江川の河川番号	1	半角空白	半角空白
1	都幾川の河川番号	1	半角空白	半角空白
1	都幾川の河川番号	1	半角空白	半角空白
1	雀川の河川番号	1	半角空白	半角空白
1	九十九川の河川番号	2	半角空白	半角空白
1	九十九川の河川番号	1	半角空白	半角空白
2	半角空白	半角空白	入間川流域の予報区域コード	3

※ 指定河川洪水予報の種類レコードは、複数のパートで構成されることがある。

## 洪水警報の危険度分布（流路）の利用にあたっての留意事項

### 【表示方法に関して】

- (1) 洪水警報の危険度分布には、中小河川の洪水災害の危険度に加えて、指定河川洪水予報の危険度も含まれています。これらの危険度がどの河川のどの場所が高まっているかを漏らさず表示できるよう、中小河川の洪水災害の危険度及び指定河川洪水予報の危険度を同一画面上に表示するよう留意願います（別紙参照）。
- (2) 洪水予報河川と中小河川では、避難勧告等の判断基準及び発令対象区域の考え方が異なる（「避難勧告等に関するガイドライン」（内閣府）（平成29年1月））ことから、中小河川の洪水災害の危険度と指定河川洪水予報の危険度を明確に区別できるように表示することが重要です（別紙参照）。
- (3) 中小河川の洪水災害の危険度及び指定河川洪水予報の危険度の色について、「避難勧告等に関するガイドライン」に記述されている「避難準備・高齢者等避難開始」の基準例に相当するもの同士、「避難勧告」の基準例に相当するもの同士の色が、それぞれ同系色となることが重要です（別紙参照）。後述する気象庁ホームページの色調及び危険度の表現も参考にしてください。
- (4) 流域雨量指数の計算で上流から下流への流下処理が必要となる湖沼（例：琵琶湖）については、湖沼の中に仮想的な流路を設定することで、湖沼も含めた流下計算を行っています。このため、あらかじめ提供する流域雨量指数計算河川の流路データには、湖沼の中の仮想的な流路データも含まれています。

ただし、湖沼の中にある流路はあくまで内部処理に必要なもので、実際にそこで危険度が高まるわけではないことから、危険度分布において基準（洪水警報・注意報基準）は設定していません。このため、琵琶湖などの中の流路データは、リアルタイムに配信するシェープファイルに含まれません（洪水危険度判定値が0の流路部分は含まれないため）。

なお、気象庁ホームページでは、国土交通省国土政策局「国土数値情報（湖沼）」のシェープファイルを上から重ねることで、この仮想的な流路が見えなくなるようにしています。
- (5) あらかじめ流路データを提供する流域雨量指数計算河川のうち、暗渠化されており法規上「下水道」として扱われている一部の河川などにつきましては、洪水警報ではなく大雨警報（浸水害）の対象として取り扱うこととしており、気象庁ホームページでは流路を表示していません。これらの河川の河川番号、河川名、都道府県は以下のとおりです。

83029115	桃園川	東京都	83028097	小松川境川	東京都	83028007	左近川	東京都
83029117	田柄川	東京都	83028096		東京都	86061022	土佐堀川	大阪府
83029121	出井川	東京都	83028408	一之江境川	東京都	86061422	平野川	大阪府
83029122	前谷津川	東京都	83028009		東京都			

※ 河川名が特定できない場合には、河川名の欄を空欄としています。

## 【利活用に関して】

- (6) 避難などの判断への利用やその解説にあたっては、自分がいる地点だけでなく、氾濫等が発生した場合において自分がいる場所に命の危険を及ぼす可能性のある河川の危険度を確認するように留意してください。その際には、危険度の高い状況は上流から下流へ移動してくる傾向がありますので、上流地点の危険度も含めて確認するようにしてください。
- (7) 洪水警報の危険度分布では、氾濫が発生した場合の氾濫水の移動までは考慮されていません。洪水予報河川や水位周知河川については氾濫が発生した場合の浸水想定区域が指定されているところがありますので、自治体が公表している洪水ハザードマップを参照してください。
- (8) 洪水警報の危険度分布は、洪水注意報・洪水警報・記録的短時間大雨情報等と合わせてご利用ください。例えば、洪水警報等が発表されたときに、実際に洪水危険度が高まっている地域については洪水警報の危険度分布で確認する、といった利用が有効です。なお、洪水警報等は、気象状況等を総合的に判断して発表するため、これらの発表状況と洪水警報の危険度分布は完全には整合しない場合もあります。
- (9) 洪水警報の危険度分布の利活用に関する詳細は、次に示す WEB ページを参照してください。
- ・洪水警報の危険度分布の解説ページ  
[http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/riskmap\\_flood.html](http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/riskmap_flood.html)
  - ・気象等の情報に関する講習会資料  
<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/minkan/koushu180228.html>



(参考：気象庁ホームページにおける危険度の色調)

指定河川洪水予報		R	G	B
(国や都道府県が管理する河川のうち、流域面積が大きく、洪水により大きな損害を生ずる河川について、洪水のおそれがあると認められるときに発表。) <b>高</b> 危険度 <b>低</b>		0	0	0
■ 氾濫発生情報		230	11	108
■ 氾濫危険情報 (『避難勧告』相当)		255	90	0
■ 氾濫警戒情報 (『避難準備・高齢者等避難開始』相当)		250	245	0
■ 氾濫注意情報		128	255	255
■ 発表なし				

洪水警報の危険度分布		R	G	B
<b>高</b> 危険度 <b>低</b>		108	0	140
■ 極めて危険		230	45	255
■ 非常に危険 (氾濫注意水位等を越えていれば『避難勧告』相当)		250	70	0
■ 警戒 (水防団待機水位等を越えていれば『避難準備・高齢者等避難開始』相当)		250	245	0
■ 注意		60	255	255
■ 今後の情報等に留意				

(参考：気象庁ホームページにおける危険度の表現)

●洪水危険度判定値

- 0 : 今後の情報等に留意
- 1 : 注意
- 2 : 警戒 (水防団待機水位等を越えていれば『避難準備・高齢者等避難開始』相当)
- 3 : 非常に危険 (氾濫注意水位等を越えていれば『避難勧告』相当)
- 4 : 極めて危険

●指定河川洪水予報の種類

- 2 : 氾濫注意情報
- 3 : 氾濫警戒情報 (『避難準備・高齢者等避難開始』相当)
- 4 : 氾濫危険情報 (『避難勧告』相当)
- 5 : 氾濫発生情報

# 気象庁ホームページにおける洪水警報の危険度分布の表示例

(1)

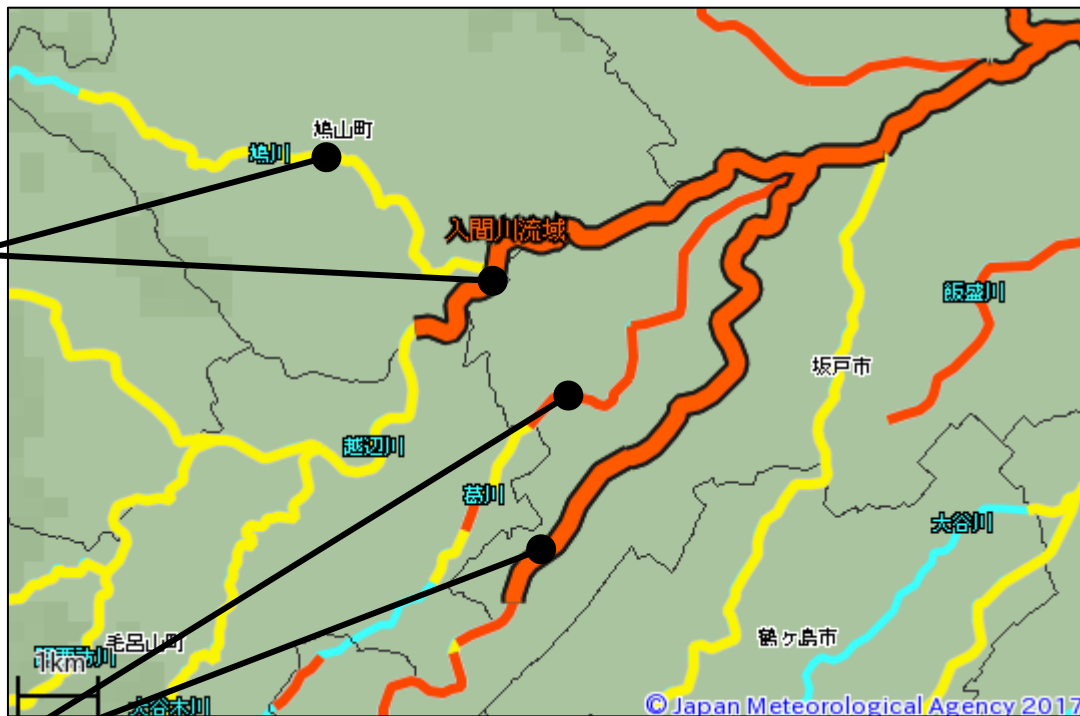
中小河川の洪水災害の危険度に加えて、指定河川洪水予報の危険度も漏らさず把握できるよう、中小河川の洪水災害及び指定河川洪水予報の危険度を同一画面上に表示しています。

(2)

洪水予報河川と中小河川では、避難勧告等の判断基準及び発令対象区域の考え方が異なる（「避難勧告等に関するガイドライン（内閣府）」）ことから、中小河川の洪水災害の危険度と指定河川洪水予報の危険度を明確に区別できるように表示しています。

(3)

中小河川の洪水災害の危険度及び指定河川洪水予報の危険度の色について、「避難勧告等に関するガイドライン（内閣府）」に記述されている「避難準備・高齢者等避難開始」の基準例に相当するもの同士、「避難勧告」の基準例に相当するもの同士の色が、それぞれ同系色となるよう表示しています。



## 指定河川洪水予報

（国や都道府県が管理する河川のうち、流域面積が大きく、洪水により大きな損害を生ずる河川について、洪水のおそれがあると認められるときに発表。）

高	■ 氾濫発生情報
危険度	■ 氾濫危険情報（『避難勧告』相当）
	■ 氾濫警戒情報（「避難準備・高齢者等避難開始」相当）
低	■ 氾濫注意情報
	■ 発表なし

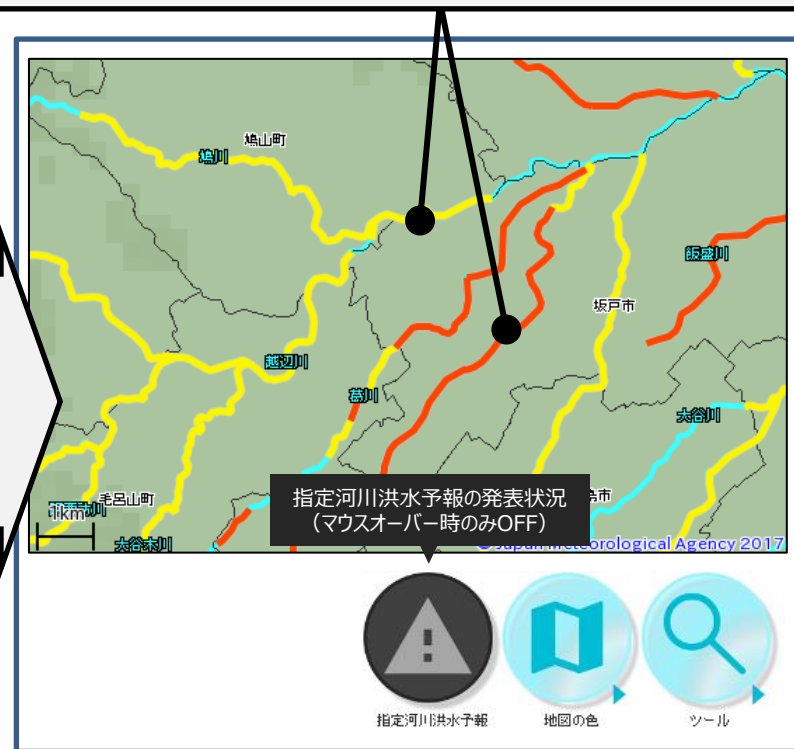
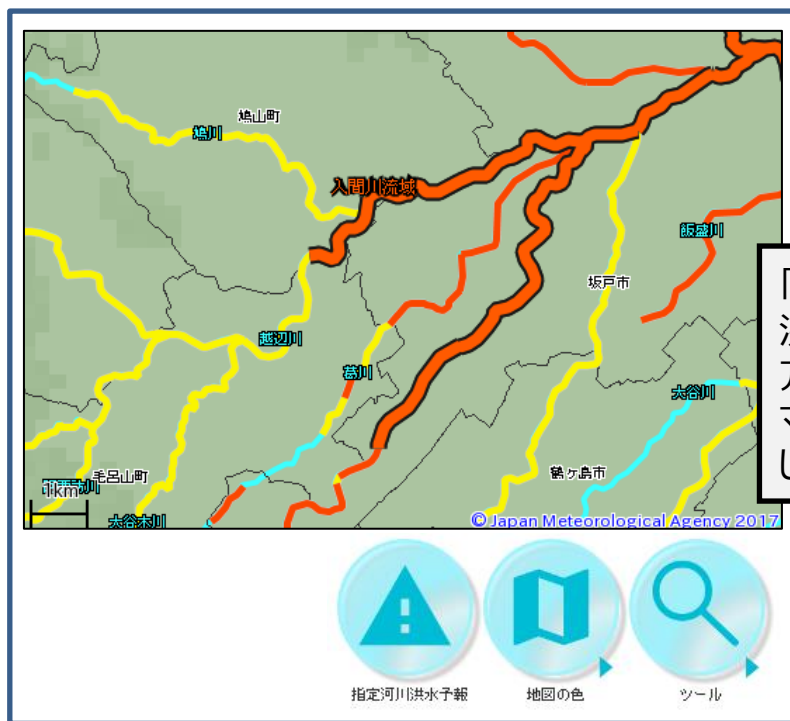
## 洪水警報の危険度分布

高	■ 極めて危険
危険度	■ 非常に危険（氾濫注意水位等を越えていれば『避難勧告』相当）
	■ 警戒（水防団待機水位等を越えていれば「避難準備・高齢者等避難開始」相当）
低	■ 注意
	■ 今後の情報等に留意

# 気象庁ホームページにおける洪水警報の危険度分布の表示例

洪水予報河川における「警戒」や「注意」の表示は、複合基準への到達状況を表し、当該洪水予報河川の外水氾濫ではなく、湛水型の内水氾濫（当該洪水予報河川への合流が滞ることによって発生する周辺の支川の外水氾濫や下水道の氾濫）のおそれがある状況を示しています。

気象庁ホームページにおいては、指定河川洪水予報の危険度が意図せずに表示されなくなってしまうよう、指定河川洪水予報のアイコンにマウスオーバーした場合にのみ、この表示が確認できるようになっています。



指定河川洪水予報	
高	氾濫発生情報
危険度	氾濫危険情報（『避難勧告』相当）
低	氾濫警戒情報（『避難準備・高齢者等避難開始』相当）
	氾濫注意情報
	発表なし

洪水警報の危険度分布	
高	極めて危険
危険度	非常に危険（氾濫注意水位等を越えていれば『避難勧告』相当）
低	警戒（水防団待機水位等を越えていれば『避難準備・高齢者等避難開始』相当）
	注意
	今後の情報等に留意

# (参考)流域雨量指数と洪水警報の危険度分布の関係

## ○ 流域雨量指数

- ・ 河川の上流域に降った雨が、地表面や地中を通過して河川に流れ出し、河川に沿って流れ下る量を数値化したもの。水位変化との相関が高い指標で、任意の地点における洪水危険度の把握が可能。
- ・ 河川の断面形状や計算に必要なパラメータは、実際に即したのではなく仮定に基づいている。また、ダムや堰等による人為的な流量調節の効果も考慮していない。これらの要素は過去の災害実績に基づき設定した「洪水警報・注意報基準」に一定程度反映されており、流域雨量指数が当該基準を超えるかどうかで災害発生危険度の高まりを判定できる。

## ○ 洪水警報の危険度分布

- ・ 10分毎に計算される「流域雨量指数」を「洪水警報・注意報基準」で判定し、その判定結果を地図上に表示したもの。
- ・ 「洪水警報・注意報基準」は、過去の災害発生時の流域雨量指数の値を調査して、河川毎に設定。
- ・ 判定には、3時間先までの流域雨量指数の予測値を用い、その中で最も高い危険度を表示している（洪水警報の危険度分布は、気象庁ホームページで10分毎に更新）。

洪水害発生の相対的な  
リスクの高まりを表す

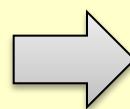
流域雨量指数



対象地域の  
災害特性を表す

警報・注意報基準

過去に発生した災害実績との  
統計的比較をもとに基準値を設定

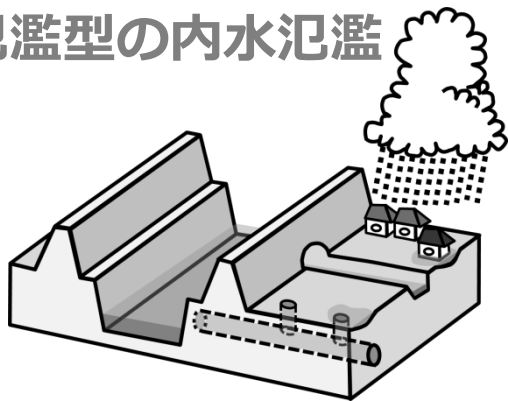


警報・注意報基準の到達状況を  
地図上に表示

洪水警報の危険度分布

# (参考)洪水警報が対象とする災害

## 氾濫型の内水氾濫



- ✓ 短時間強雨等により雨水の排水能力が追いつかず、発生する浸水。
- ✓ 河川周辺地域とは異なる場所でも発生する。

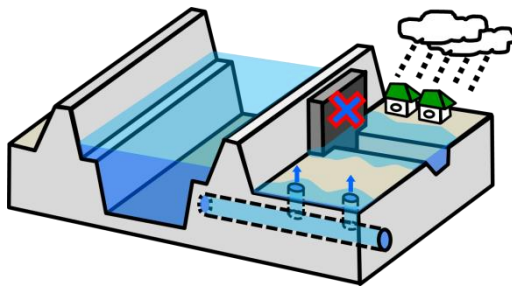
河川の増水によらない



大雨警報(浸水害)の対象

表面雨量指数

## 湛水型の内水氾濫



- ✓ 河川の水位が高くなったため河川周辺の雨水が排水できずに発生。
- ✓ 発生地域は堤防の高い河川の周辺に限定される。

河川の増水に起因

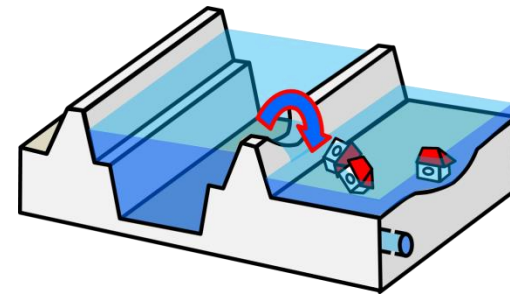


洪水警報の対象

複合基準

(表面雨量指数 + 流域雨量指数)

## 外水氾濫



- ✓ 河川の水位が上昇し、堤防を越えたり破堤するなどして堤防から水があふれ出す。

流域雨量指数

# (参考)洪水警報の基準の考え方

基準	基準要素	基準設定手法	
		調査対象期間に災害発生あり	調査対象期間に災害発生なし
警報相当	Ⅲ 流域雨量指数基準	河川流域で発生した外水氾濫に起因する重大な浸水害を <u>高い確度で適中させる</u> ように設定。	災害ありの河川で設定された基準Ⅲを参考に、それと同等レベルの基準値を設定。 ( <u>基準Ⅲと基準Ⅱの比が「災害発生ありの河川」と同程度</u> になるように設定)
	Ⅱ 流域雨量指数基準 複合基準 表面雨量指数+流域雨量指数	河川流域で発生した外水氾濫に起因する重大な浸水害を <u>見逃さない</u> ように設定。	基準超過頻度を考慮し、 <u>30年確率値</u> を設定。 (調査期間(25年間程度)で1回基準超過するレベルに設定)
		河川流域で発生した内水氾濫に起因する重大な浸水害を <u>見逃さない</u> ように設定。	設定しない。
注意報相当	Ⅰ 流域雨量指数基準 複合基準 表面雨量指数+流域雨量指数	河川流域で発生した外水氾濫に起因する浸水害(警報まで至らない軽微なもの)を <u>見逃さない</u> ように設定。	基準超過頻度を考慮し、基準Ⅱの7~8割に設定。
		河川流域で発生した内水氾濫に起因する浸水害(警報まで至らない軽微なもの)を <u>見逃さない</u> ように設定。	設定しない。

- **流域雨量指数基準は**、災害の有無に関わらず、流域雨量指数を計算している**全ての河川に設定**する。ただし、洪水予報河川については、指定河川洪水予報により氾濫への警戒を呼びかけるので、流域雨量指数基準は設定しない。
- **複合基準は**、過去に**対象災害(内水氾濫に起因する浸水害)**が発生していた河川についてのみ設定する。対象災害が発生していなければ、複合基準は設定しない。